３月21日は「バルブの日」 くらしに欠かせないバルブ

日本バルブ工業会は、日本のバルブ工業の進歩・発展に寄与することを目的として、さまざまな委員会・部会等を設けて活動を行っている。同工業会では、発足日である３月21日を「バルブの日」と定めており、このバルブの日にあわせ、同工業会の環境活動等の取組みや最近の動向を紹介する。

日本バルブ工業会の環境活動内容

あらゆる産業で流体制御の要として広く使われているバルブは、その品質や性能のみならず環境側面でも優れた製品でなければならないとの思いから、日本バルブ工業会では環境委員会を中心とし、バルブ産業を取り巻く多くの環境課題への対応を進めるとともに、会員企業の環境への取組みをサポートすることを目的として活動している。

環境委員会は、活動テーマ別に三つのWGに分かれている。うちWG1（企画調査）はセミナーの企画や環境活動調査を担当し、WG2（環境配慮設計推進）は会員企業の環境配慮設計推進のための諸施策を担当し、WG3（環境広報）は環境に係わる情報の収集と発信、会員企業の環境対策のサポートを担当している。

また今年度は、欧州でPFAS（有機フッ素化合物）制限案が提起されたことを受け、その対応に当たる「科学物資対策専門チーム」も新たに発足させている。

ここでは、同工業会の2023年の環境活動を報告書に基づいて紹介する。

■「脱炭素化委員会」を新たに発足

産業界が取り組まなければならない課題は多々あるが、その中でも将来にわたって長く課題となるのが、2050年までの「カーボンニュートラル」の達成だ。

バルブ産業全体で地球温暖化への問題意識を共有し、カーボンニュートラル達成までのロードマップを描いていくためには、経営者の視点での取組みが不可欠であることを踏まえ、同工業会は昨年度から設立の準備を進めてきた「脱炭素化委員会」を今年度早々発足させ、活動に入った。

同委員会は、環境委員会と連携しながらカーボンニュートラルに特化した活動を行う。当面は、バルブ産業におけるCO2排出量のより正確な把握と、それに基づく今後の排出削減目標の策定、会員企業経営層への啓発活動等を行っていく予定。

■PFAS制限案への対応

2023年2月、欧州でPFASの製造ならびにPFASを含む製品の使用を用途ごとに制限する案が提起された。PFASには1万を超える物質があるとされ、このうち有害性が確認されているのはごく一部であるものの、提起案はPFASをすべて一律に規制する内容となっている。

バルブ製品においては、主にPTFEやFKMが優れた耐久性や洗浄性、摺動性等を持つことを踏まえてパッキンやガスケット、ダイヤフラム等に使われている。欧州で制限案がこのまま法制化された場合（法制化は2025年、施行は2027年の予定）、会員企業各社の製品が現在の機能や品質を維持することは困難になることが見込まれている。

そこで、環境委員会では前記した新たな「科学物質対策チーム」の活動を5月から開始した。

同チームは会員企業におけるPFASの使用実態調査を行い、ここで得られたデータをもとにパブリックコメントを作成し、これをECHA（欧州化学品庁）に提出した。パブコメでは、バルブが使われている幅広い用途とPFAS含有部材の役割を挙げながら、現在案のまま法が施行された場合の影響について説明し、制限の適用開始までの猶予期間延長、ならびに用途によっては適用除外を求める内容としている。

■環境情報の発信

同工業会では、環境メールマガジンの発信とHPコンテンツ「環境関連情報」の更新をそれぞれ月1回のペースで継続し、情報提供に努めている。2023年は、前年に引き続きカーボンニュートラル関連情報を頻繁に取り上げたほか、PFAS制限案に関する情報も多く掲載した。

■環境配慮バルブ登録制度

「環境配慮バルブ登録制度」は、同工業会独自の環境ラベル制度として、2016年から運用を開始している。

同制度は、ISOが規定する三つのタイプの環境ラベルのうち、タイプⅡ（事業者の自己宣言による環境主張）の規程にならって運用の仕組みを構築しており、2018年には環境省の「環境ラベル等データベース」にも同制度のラベルが登録された。

登録対象となる製品は、手動弁、調節弁（空気式・電気式・油圧式）、自力式調整弁、電磁弁、安全弁、スチームトラップ類、ブリーザバルブ、給水栓（手動式・電気式のキッチン用・バス用・洗面用・その他用）、止水栓、分水栓。

現在、10社の30製品が登録されている。

環境配慮バルブ登録制度のラベル

日バルTOPICS

◎「バルブの日」が認定記念日に◎

日本記念日協会は4日、3月21日を「バルブの日」として記念日登録認定した。認定登録された記念日は同協会のHP上で公開されるほか、提携各社へ記念日情報を提供するなどさまざまな形でPRされる。昨年10月末現在で2600件を超える記念日が認定登録されている。バルブの日は2009年3月、広報委員会の審議にて日本バルブ工業会の発足日・3月21日に定められていた。

◎中期活動計画「V70」が計画期間満了、次期計画へ◎

中期活動計画「V70」（計画期間＝2021～2023年度）が今年度で最終年度となる。「新世代へつなげる新しい働き方への転換」「未来の社会に貢献できる先進的な技術と商品づくり」「社会全体の脅威・リスクに対応できるサプライチェーンとサステナビリティの強化」「バルブ産業の認知度向上」の4分野において、さまざまな活動が行われた。「V70」の取組みを踏まえ、現在、2026年度を最終年度とする次期中期活動計画「仮称 From Now 70」の策定が進められている。

◎令和6年能登半島地震の被害に対し義援金贈呈◎

日本バルブ工業会は令和6年能登半島地震の被害に対する義援金を1口1万円で1月23日～2月7日に募ったところ、会員企業34社および1個人から583万円の義援金が集まった。義援金は被災地の一日も早い復興を祈念、9日に日本赤十字社に贈呈された。

※義援金を申しこんだ会員企業・個人は次の通り（社名50音順）。

▽アイエスエス工業所▽江戸川バルブ・プロテクション▽オーエヌ工業▽オーケーエム▽カクダイ岐阜工場▽キタムラフォーセット▽キッツ▽共栄バルヴ▽日邦バルブ▽日本ピラー工業▽日本ボールバルブ工業▽光陽産業▽コンサス▽SANEI▽三協製作所▽清水合金製作所▽スリーエム工業▽善光金属▽タブチ▽TOA▽TVE▽ティヴィバルブ▽テイエルブイ▽東洋バルヴ▽日邦バルブ▽日本ピラー工業▽バルブ▽福井製作所▽前田バルブ工業▽水生活製作所▽宮部鉄工▽ミヤワキ▽大和バルブ▽ワシノ機器▽髙橋浩二公認会計士（個人寄付）

◎バルブ女史ネットワーク◎

女性人財のさらなる活躍、女性にとってより働きやすい環境づくりを進めるため、日本バルブ工業会は2017年、会員企業の女性社員からなる「バルブ女史プロジェクト」を立ち上げた。見識や教養豊かで社会に貢献する女性を目指すべく、「女史」という言葉を選んだという。その後、期間限定のプロジェクトではなく、つながりを大切にして持続的に活動する組織とするため、組織名を「バルブ女史ネットワーク」に変更した。具体的には、「女性の感性とモチベーションでバルブ業界の発展に貢献しよう」のスローガンのもと、2カ月に1回のミーティング、年に1回の見学会や講演会等を実施している。

VALVE JOSHI バルブ女史

バルブ女史ネットワークのロゴ

70周年機に一層精進

日本バルブ工業会会長　西岡 利明

日本バルブ工業会は、1941年3月設立の日本バルブコック工業組合連合会を前身に、1954年3月21日、日本弁工業会として設立いたしました。その後1962年8月に日本バルブ工業会に名称変更し、2013年4月1日、現在の形である一般社団法人日本バルブ工業会へと推移してまいりました。

その間、戦後復興から高度経済成長、バブル景気またその崩壊、たび重なる自然災害等々を経験し、さらなる強固な工業会へと進化・発展し、流体制御の要として社会に貢献してまいりました。

おかげさまをもまして、本年3月21日に、日本バルブ工業会は設立70周年を迎えます。これもひとえに皆さま方の温かいご支援の賜物だと感謝申し上げます。

中期活動計画であるV70は、2023年度末をもちましてわれわれの目指す『あるべき姿』に到達できるものと思われます。

現在は2026年度をゴールとする新たな中期活動計画『仮称 From Now 70』を策定中です。さらなる意義ある工業会に進化し続けられるよう、皆さま方とともに精進していきたいものです。

最後に、皆さま方のますますのご繁栄、ご健勝をご祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

70周年記念ロゴ（右下はバルブのイメージキャラクター「ばるちゃん」©一般社団法人日本バルブ工業会）

日本記念日協会　記念日登録証

新バルブフォトコン 作品募集を開始

日本バルブ工業会はこのたび第1回「バルブフォトコンテスト」の募集を開始した。同工業会はこれまで12回にわたり、写真と川柳によるコンテストを開催してきた。今回、若い世代にバルブがさまざまな場所で生活に役立っていることをこれまで以上に知ってほしいとの思いから、写真と作品名にて気軽にInstagram上で年中応募が可能なコンテストとして実施することにしたという。

第1回の募集・審査期間は3回に分かれており、現在は1回目の応募を5月7日まで受け付けている。審査結果は6月6日に発表予定。なお、5月8日からは2回目の募集を開始する。

昨年の最優秀作品賞
（作品名：負けない、川柳：コロナ禍を生き抜くためにできること、作者：吉田聖氏）

【応募方法】同工業会Instagram（アカウント名：jvmaofficial）をフォローし、撮影したバルブとわれわれの暮らしのつながりがわかる写真と投稿内容に「作品名：○○○」を加え、ハッシュタグ「#バルブフォトコンテスト」を添えて投稿のこと。動画での応募は審査対象外。

【応募資格】プロ・アマいずれも応募が可能

【作品審査・入賞者発表】同工業会広報委員会で応募作品を審査し、入賞作品投稿者には審査後にInstagramのDMで通知

【表彰および賞品】バルブのイメージキャラクター「ばるちゃん」のグッズを贈呈

【応募・作品の注意点】一つのInstagramアカウント名で複数の投稿可▽投稿写真は自ら撮影した未発表のものに限る、再応募も不可▽海外からの投稿の場合、賞品の海外発送は不可▽写真に文字を重ねるのは不可。トリミングや色味・明るさの微調整は可能

【問い合わせ先】日本バルブ工業会事務局（担当：土屋氏）　Eメールinfo@j-valve.or.jp
電話03（3434）1811

緩急剛柔
モリタのバルブは緩急剛柔。さまざまな用途や状況で適切に働いています。
スイング式逆止弁 P500～3000型 強靭な構造、優れた止水性能。
メタルシートバタフライ弁 MB-C型 抜群の止水性能と優れた耐食、耐久性。
コンフローオートバルブ MRF-100型 減圧弁 水圧を動力源に無電源で自動的に作動し、出口圧力を一定保持する自動調整弁です。
水と人とのかかわり — バルブの モリタ
株式会社 森田鉄工所
本社工場 〒340-0121 埼玉県幸手市大字上吉羽2100-33 ☎0480(48)0891㈹ FAX.0480(48)0137
営業本部 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-15 ☎03(5820)3088㈹ FAX.03(5823)7594

水道バルブ工業会
JAPAN WATER VALVE ASSOCIATION
会長 吉岡 榮司
副会長 串田 守可
副会長 宮川 多正
理事長 手塚 正三
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9（日本水道会館）
TEL.03（3264）0385 FAX.03（3222）6706
URL:http://www.jwva.jp

タブチは、高品質な商品を通して、未来へとつづく
『安心』『安全』なライフラインをデザインしていきます。
100年先の水道のためにできること…。
流体をコントロールするのが仕事です。
株式会社 タブチ
<本社 / 工場> 〒547-0023 大阪市平野区瓜破南 2-1
TEL 06-6708-0150㈹ FAX 06-6708-0210
ISO14001 認証 JQA-EM1811 本社・工場
ISO9001 認証 JQA-2668 本社
商品のお問合せは 0120-481-130（いいみず）
<支店 / 営業所>札幌・盛岡・仙台・高崎・新潟・千葉・土浦・さいたま・さいたま北・多摩 東京・横浜・静岡・金沢・名古屋・名古屋北・京都・大阪・神戸・岡山・広島・松山・福岡・鹿児島・沖縄
検索機能充実の TBC WEBカタログ はホームページから！ TABUCHI WEB CATALOG タブチ 検索
ホームページはこちら▶

考えよう
暮らしと産業を支える
バルブのこと
充実のラインアップでライフラインを守る
ポリパイソフト
SGSは水で社会に貢献する
SGS 株式会社 清水合金製作所
滋賀県彦根市東沼波町928 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・中国四国・九州
一般社団法人日本バルブ工業会
3月21日はバルブの日